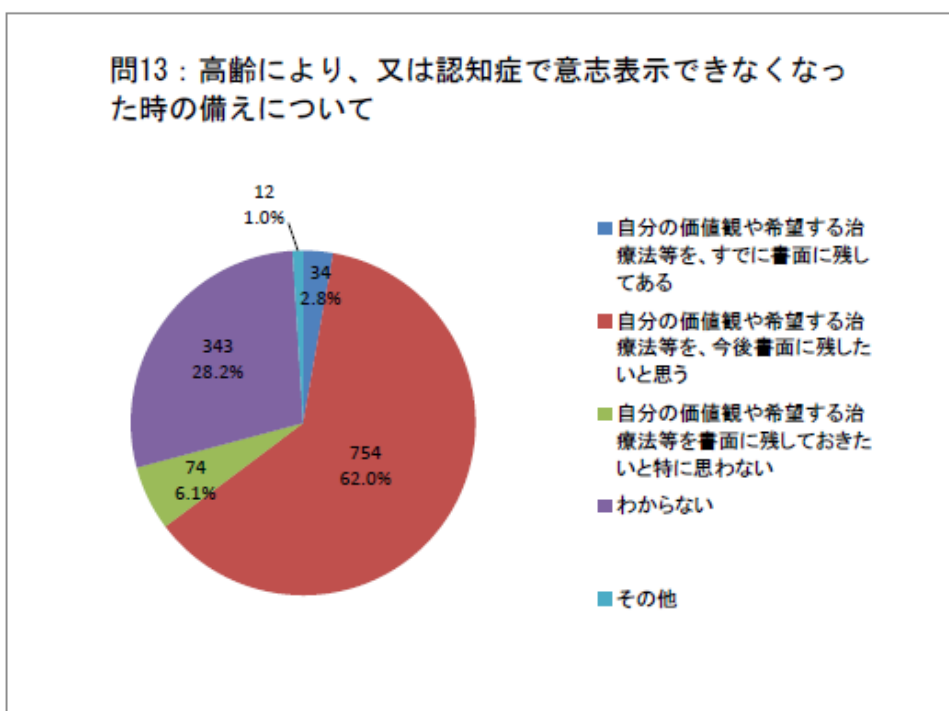
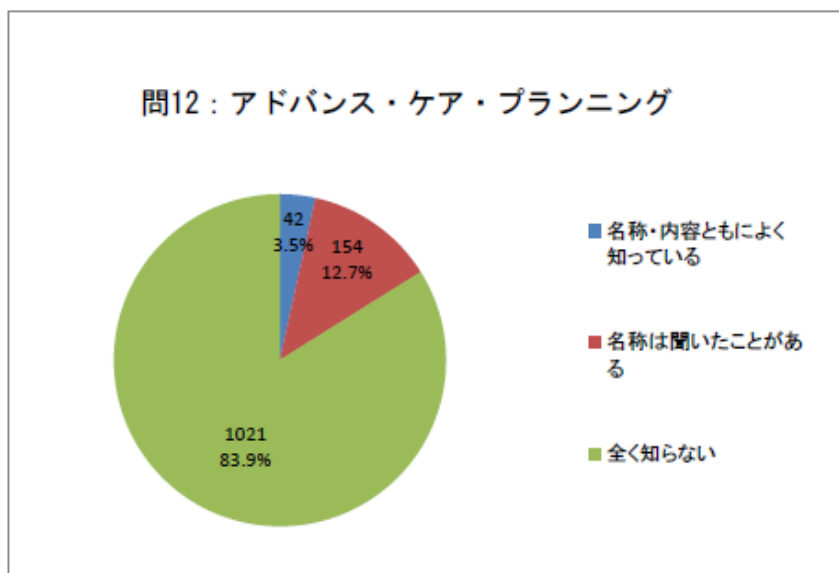


安城市 e モニター制度 R3.2 に調査（高齢者支援より抜粋）

安城市民で 18 歳以上 1200 人程度の人が回答。



【主なその他意見】

- ・書面には残さないと思うが、子供や親族と機会があるごとに話題にしていきたい
- ・常日頃からこうして欲しいと伝えておく
- ・いつかは必要だと思うがまだその時期ではないと思う

【在宅医療・ACP等について】
ネットに保存し病院等もカルテのように見られるのが理想。書き残してもいずれ一人になり見られる人が居なくなる。
書き残しておきたい。高齢者にそういう、サポート（用紙など）しても良いのでは。
自分の価値観や希望する治療法等を、書面に残した場合に税制上で優遇をする。そして、そのための制度を市内の病院と共に作成して、全国的に先駆けた取り組みをしてほしい。
誰しも自分は大丈夫だと思ってしまう。ACPも個人任せではなく自治体で機会を作って欲しい。
在宅医療をしたいが、家族の負担が大きく経済的にも無理な家庭は多いと思う
かかりつけ医との連携
ボケたり、寝たきりになった際に安楽死の選択肢が欲しい。安楽死の法整備。
問13について様式を標準化して高齢者に渡してほしい。災害時の手助けが必要ななどの各書類と一体にして関係者が見れるように。
問13について、遺言書と同様に市と医療機関が連携も含め、遺言書と類似書面作成、市文書保管などの高齢者支援の総合的システム構築することも一案かと思う。
在宅介護や看護を推し進めたいなら、訪問介護ヘルパーの処遇を改善するべきだ。
意思表示ができなくなった場合に備えるよう、迫られる、誰もが考えないといけない、と思わせられるのは辛い。暗に回りに迷惑が掛からないことになるような選択を求められている気がする。
自分や両親、配偶者、すべての価値観や希望する治療法等を、今後書面に残す方法をレクチャーして欲しい。死後についても備えて置きたいからそこまで見越した準備を知りたい。
新しい制度や名称を使うのは良いが、それについて知っているかと問われても、内輪で言葉遊びをしているようにしか感じない